

豊かで充実した老後を
漁業者国民年金基金
漁業者年金
ひとりば万人のために、万人はひとりのために

拓水

11月号 No. 421
一部 10円
発行所 兵庫県漁業協同組合連合会(財) 兵庫県水産振興基金
神戸市兵衛区中之島 2-2-1
TEL 681-6954~7
発行人 兵庫県漁業協同組合連合会

ソ連邦漁業代表団訪日

沿海地方日本海漁業研究代表団と 但馬地区漁業代表との懇談会開催される

去る(二)月(九)日(火)美方部温泉町井筒屋において兵庫県漁業協同組合連合会の主催により、沿海地方日本海漁業研究代表団と但馬地区漁業代表との懇談会を開催した。

この懇談会は、兵庫 トフ氏、在大阪ソ連邦県が実施している日本 総領事館副領事A・V・海水産資源国際管理推進事業の一環として、ソ連邦の代表として、同代表団が来日する時は地元漁協、兵庫県及び系統団体の代表等一同を交るとともに、今後の漁業交流等を模索することを目的として開催したもので、ソ連邦側から太平洋漁業海村領但馬地区漁協協議会長から歓迎の言葉並びに但馬地区の漁業紹介がなされた。

当日は、酒部県漁連会長の主催者挨拶の後、「県立香住高校所属の但州丸で本県青年漁業約三〇名を来年度ウラジオストック港へ派



副所長のO・A・ブラ

介が行われた。その後、ソ連邦漁業関係者との交流を行った。また、昨年、訪日時に話題に上がった日本海大陸棚斜面における共同資源調査の実現性はどうか等の要約、質問が出されたが、プ

ラトフ氏より「沿海地方執行委員会議長に報告するとともに、実現すべく努力する。また、資源調査についても今も有効である。」との回答を得た。また、ソ連邦側から日本海の資源動向等日本の漁業に

第8回淡路地区漁婦連ハレーボール大会開催

南淡漁協婦人部が五度目の優勝

秋晴れの(一)月(九)日、第八回淡路地区漁婦連ハレーボール大会が、三原町体育館で七チーム(総勢二六〇名)が参加して開催されました。

この大会は、婦人部の親睦と健康維持をはかるため例年開催しており、審判も相互に交替して行われ、和気藹々と試合が進行。各チームとも回を重ねる毎に技術も向上し、好プレーが続出しました。

試合は、変則リーグ方式で行い、各ブロック(三ブロック)から

盛会裡のうちに終始した。また、懇談会終了後、ソ友好交流・漁業交流が進展していくことを切望して止まない。

この懇談会を一つの契機として、今後の日ソ友好交流・漁業交流が進展していくことを切望して止まない。



山田香織さん(信漁連・山田峰人賞付課長の長女)

100メートル中学日本一

石川国体・堂々の二位

平成三年(一)月(二)日より石川県で熱戦が繰りひろげられた国体秋季大会で、兵庫期待の山田香織さん(平野中学三年)は、少年女子一〇〇メートルで二秒五二をマークし二位と健闘。当タイムは電気計時中学兵庫新

準決勝を最高タイム(二秒四六)で通過した山田さんは、決勝でも好スタートをきり、シャープなトップでゴールまでトップで力走。ゴール手前で舟木さん(愛知県徳高一年)の追いあげに僅か〇・一〇秒及ばず惜しくも二位でゴール。山田さんは、中学になって長身(一六五)を活かした切れ味鋭い

ハードリングに磨きがかかり、県下の大会では次々と記録をぬりかえている兵庫陸上界のホープ。今国体での優勝の期待が大きかった。試合後、「相手が高学年でもやはり悔しい」「来年またこの種目に挑戦します」との頼もしい言葉に期待は増々強まっている。めげさせ、オリンピック!!

松葉ガニ漁解禁!

但馬の冬を代表する松葉ガニ漁が二月六日解禁された。

前日の五日には、豊漁と海上安全を祈願して柴山港漁協では出港祭が催される等、期待と不安の入り乱れる中、各港から思い思いの漁場へ向けて八二隻が出港して行った。

松葉ガニ漁は、資源保護のためメスの漁期を前年より三日短縮する等、規制強化が一段と図られる一方で、県漁連を事業主体として漁業者自らが主漁場である島根県隠岐北方海域へ中古漁船を利用した沈船魚礁の設置及び香住沖保護水域へ稚ガニの移植が実施される。

ニの移殖放流を継続して行われ、資源管理に努めている。

さて、解禁初日の午後からは続々と底曳網漁船が帰港し、とりたてのカニ(オス一、二、三、kg、メス八、五〇kg)をサイズ・色・セリに見ることなく次の航海へと出港、本格的な底曳漁期に入るとともに本年度底曳漁期の命運をかけた漁が始まった。

最後に、各船の海上安全と豊漁を祈願してやまない。



優勝した南淡漁協婦人部チームの皆さん

水試ノート

近年のサワラ漁獲量の動向について

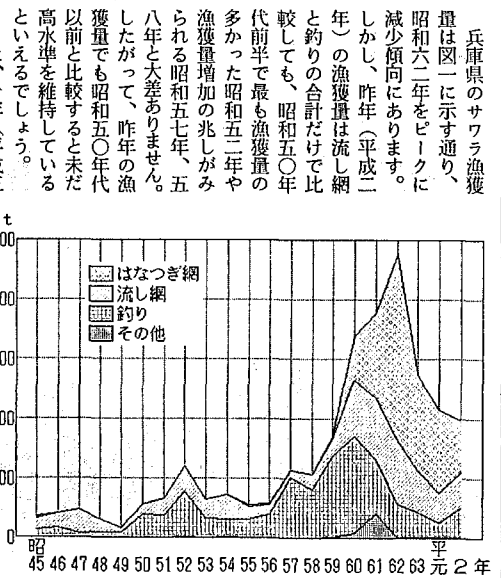


図1 漁業種類別漁獲量 (農林統計)

兵庫県のサワラ漁獲量は図一に示す通り、昭和六〇年をピークに減少傾向にあります。しかし、昨年(平成二年)の漁獲量は流し網と釣りの合計だけで比較しても、昭和五〇年代前半で最も漁獲量の多かった昭和五二年や漁獲量増加の兆しがみられる昭和五七年、五八年と大差ありません。したがって、昨年の漁獲量でも昭和五〇年代以前と比較すると未だ高水準を維持しているといえるでしょう。また、今年(平成三年)の漁獲量についてもみると、現在集計中の春季の漁獲量は流し網釣りに比べて昨年を下回った地区が多かった様です。ただ、はなづき網は水産試験場が報告をお願いしている漁協では昨年引き続き今年も減少してしまいましたが、

兵庫県のサワラ漁の長期的な動向を考慮していく上で、総漁獲量の増減だけでなくその中身の変化についても注意して行く必要があると思われれます。そこで、過去の漁業実態を明らかに

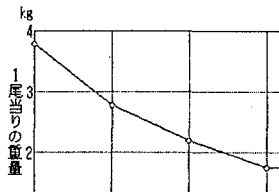


図2 五色町漁協における一尾当りの重量

となつて実施しているガザミの保護及びバックフィッシュ運動は資源管理型漁業の重要な要素です。資源培養管理対策推進事業でこれらをもっと進めて底層網漁業者みんなが組織に入り現在取り組んでいる活動をもっと広い範囲で実施しようとするものです。そして、今までのように行政から強制されて実施してきた規制でなく、自分達でなくてはならない事を自分達で決めて、その決めごとを全員が守っていくというのが理想です。瀬戸内海は豊かな海です。豊かなうちに資

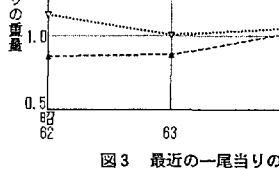


図3 最近の一尾当りの重量

ワラが流し網の場合より小さい理由は、サワラの生態と関連付けて考えると説明ができます。サワラは春に大型の個体が産卵に回遊してきますが、産卵の盛期にはあまり餌を食べないで春季における釣りの漁期は流し網より短い期間で終わる場合が多い様です。それに対し、秋はその年生

小さい魚です。秋のサゴシはその年の春に生まれた個体ですが、孵化後半年程度で六〇〇〜七〇〇mmで成長していき、中には一尾近いものもいます。また、春の産卵回遊にきたものに比べ食味ではこちらが勝るといふ理由で、食べるにはサゴシを好む人もいます。商品としての価値は十分にあると思われれますが、サワラは二才以上で産卵しますので、サゴシは再生産に加わることになりません。サワラ資源全体を考えると、サワラ資源全体を育ててはならないでサワラは流し網、釣り、はなづき網といった複数の漁業種類で漁獲され、また、回避範囲が広い同種群れが複数の府県で漁獲されています。

普及員 たより

資源管理をめざして

今夏は、予想に反して残暑が続くとともに、秋にかけては週末毎に台風がやってきて大変でした。姫路市では貨物船の座礁で油が流出する、赤穂市ではカキの養殖筏が壊れるので散々でした。

さて、最近では資源管理型漁業がクローズアップされ、皆さんの漁協でも資源培養管理対策推進事業にもとづいて底層網漁業者等を対象に組織づくりや資源培養管理計画づくりに進められていくことしょう。当地区ではこの事業をスムーズに推進し資源培養管理計画策定の参考にするため、柴のシャコで全国的有名な横浜市漁協支所の青年部の方達と技術交流しました。ご存じ

するため五色町漁業協同組合に協力を頂いて、昭和四〇年以降の流し網によるサワラの漁獲状況についての調査結果の調査結果を調査結果の中核を簡潔にまとめたのは、図二に示した様に、年間を通しての一尾当りの重量の平均値がこの二〇年余りの間にかなり小さくなって来ています。昭和四〇年には四尾近くあったものが昭和五五年には二尾を割り、兵庫県の漁獲量が最も多かった昭和六二年には更に小さくなっていきます。その原因としては、より小さな目合の流し網を多用するようになったこと、ナイロン製の網がテラス網になったことなど漁具の変化が大きく影響していると思われれます。

次に、最近の一尾当りの重量について、釣り組んでいる漁協の多くは、柴支所と同様、漁業では飯が食えるかどうかの瀬戸際まで行っているから、水揚げ維持のために資源管理を実施したのだと思われれます。そして、そのようなきっかけで資源管理を始めた地区では、漁業所得は維持出来ても、資源の回復というところまではなかなか難しいようです。

今後、当地区の漁業者は県の調査データ等を参考に資源管理を実施していく訳ですが、まったく新しいものにチャレンジするものはありません。種苗放流や青年部が中心

りにより漁獲されたものも併せて図三に示しました。五色町漁協では昭和六三年は昭和六二年から更に小さくなる一・五尾を割り、さらにその後も一・五尾を下回った値で推移しています。一方、釣りの漁獲量は年により増減はあるものの一尾前後の値を示しています。後の値をみていきます。サワラが流し網の場合より小さい理由は、サワラの生態と関連付けて考えると説明ができます。サワラは春に大型の個体が産卵に回遊してきますが、産卵の盛期にはあまり餌を食べないで春季における釣りの漁期は流し網より短い期間で終わる場合が多い様です。それに対し、秋はその年生

まれの当才魚(サゴシ)を中心とした群が盛んに餌を食べるので釣りの対象としては適しており、一回の操業で漁獲される尾数は春と比べて物になりません。つまり、大型魚を主体とした春を主漁期とする流し網よりも、漁獲対象が小さい秋に努力が増加する釣りに比べて年間平均すると

この様な中で、摂津播磨地区の青年部は、実績発表大会、ソフトボール大会、学習会、技術交流、淡路地区漁青連との交流など立て続けに行事がありハードな夏だったようです。

さて、最近では資源管理型漁業がクローズアップされ、皆さんの漁協でも資源培養管理対策推進事業にもとづいて底層網漁業者等を対象に組織づくりや資源培養管理計画づくりに進められていくことしょう。当地区ではこの事業をスムーズに推進し資源培養管理計画策定の参考にするため、柴のシャコで全国的有名な横浜市漁協支所の青年部の方達と技術交流しました。ご存じ

現在、資源管理に取

り組んでいる漁協の多くは、柴支所と同様、漁業では飯が食えるかどうかの瀬戸際まで行っているから、水揚げ維持のために資源管理を実施したのだと思われれます。そして、そのようなきっかけで資源管理を始めた地区では、漁業所得は維持出来ても、資源の回復というところまではなかなか難しいようです。

今後、当地区の漁業者は県の調査データ等を参考に資源管理を実施していく訳ですが、まったく新しいものにチャレンジするものはありません。種苗放流や青年部が中心

りにより漁獲されたものも併せて図三に示しました。五色町漁協では昭和六三年は昭和六二年から更に小さくなる一・五尾を割り、さらにその後も一・五尾を下回った値で推移しています。一方、釣りの漁獲量は年により増減はあるものの一尾前後の値を示しています。後の値をみていきます。サワラが流し網の場合より小さい理由は、サワラの生態と関連付けて考えると説明ができます。サワラは春に大型の個体が産卵に回遊してきますが、産卵の盛期にはあまり餌を食べないで春季における釣りの漁期は流し網より短い期間で終わる場合が多い様です。それに対し、秋はその年生

まれの当才魚(サゴシ)を中心とした群が盛んに餌を食べるので釣りの対象としては適しており、一回の操業で漁獲される尾数は春と比べて物になりません。つまり、大型魚を主体とした春を主漁期とする流し網よりも、漁獲対象が小さい秋に努力が増加する釣りに比べて年間平均すると

まれの当才魚(サゴシ)を中心とした群が盛んに餌を食べるので釣りの対象としては適しており、一回の操業で漁獲される尾数は春と比べて物になりません。つまり、大型魚を主体とした春を主漁期とする流し網よりも、漁獲対象が小さい秋に努力が増加する釣りに比べて年間平均すると

まれの当才魚(サゴシ)を中心とした群が盛んに餌を食べるので釣りの対象としては適しており、一回の操業で漁獲される尾数は春と比べて物になりません。つまり、大型魚を主体とした春を主漁期とする流し網よりも、漁獲対象が小さい秋に努力が増加する釣りに比べて年間平均すると

まれの当才魚(サゴシ)を中心とした群が盛んに餌を食べるので釣りの対象としては適しており、一回の操業で漁獲される尾数は春と比べて物になりません。つまり、大型魚を主体とした春を主漁期とする流し網よりも、漁獲対象が小さい秋に努力が増加する釣りに比べて年間平均すると

漁海況情報

平成三年一月 兵庫県立水産試験場

海況 明石海峡周辺 旬平均水温は上旬三・三・八℃、中旬二・六℃を示しており、平年に較べて上旬は、〇・五℃高目、中旬は〇・三℃高目である。

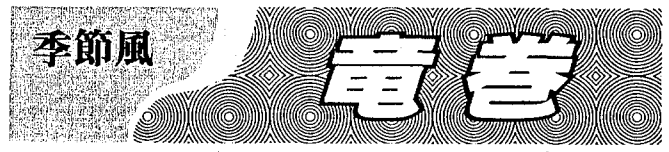
道北部 一〇月一六日の調査結果によると大阪湾の表層水温は三・一℃、中層水温は二・一℃の範囲にあり、平年より〇・五℃程度高目の水温を示している。また紀伊水道北部の表層水温は二・二・六・三・四℃

小型底層網 明石海峡周辺を主漁場とする小型底層網(ちん漕)では、マコガレイ、メイトガレイ、マダコ、カワハギなどが主に漁獲されている。先月に引き続きメイトガレイ(小)の漁獲が平年より多く、これは大阪湾北部から播磨灘北部

一本釣・曳網釣 明石海峡及びその周辺海域では、タチウオ、サワラ、ハマチなどが主に漁獲されている。タチウオは小型のものが少なくなってきたが、漁獲量は豊漁であった。昨年同時期に較べた方が少ないようである。サワラ、サゴシの漁獲

量も昨年にくらべてやや少ない。また、紀伊水道北部から鳴門海峡周辺海域でのマジやタチウオの漁獲は先月に較べてやや減少の傾向にある。船曳網 一〇月上旬の大阪湾・播磨灘におけるシラス漁は、昨年同時期を大きく上回っている。

のりテレホン情報
TEL 078-942-1534
 また、兵庫のり研究所、黒水組駐在所では次の情報も提供していますので併せてご利用ください。
 ●兵庫のり漁場環境速報 ●のり養殖情報 ●のり研情報



舞鶴海洋气象台 予報官 三沢 亮二

平成二年二月一日、千葉県茂原市に発生した竜巻は死者七九名、全半壊及び一部損壊を含め、八〇〇棟(報道による)という大きな災害をもたらした。竜巻の恐ろしさを改めて認識させたことは記憶に新しいところである。

日本での竜巻の発生は一九七一年(一九九〇年)の調査で年間平均発生件数は一四件で、その発生も九月(平均二・九一件)を中心に夏期に多く、冬期は少ないようである。

気象の事典によると竜巻とは発達した積乱雲の底から伸びたロートル状に地面や水面に延びた、非常に早い速度で回転する空気のことである。地物の破壊状況から推定される竜巻中の風速は一〇〇m/sec以上となり、上昇気流の速度も四〇〇km/sec、平均被害幅は一〇三m、平均被害長さは一・三km(そのほとんどが五km以下)、平均の移動速度は三六km/h(そのほとんどが六〇km/h以下)となっている。

一般に台風近傍や低気圧の暖域で暖気移流に伴って発生する竜巻を暖気竜巻、寒冷前線付近や上層の寒冷低気圧に必要であると考えられます。

その状況を次のように云っています。巡視艇こまゆきは、当日香住港を出港し航行中、前記海域において、東西方向に発生した異常に黒い帯状の雲の下部から三、四個の角状の雲が下方に伸びているのを視認した。

のうちに最も規模の小さな竜巻の中に入り、ビデオカメラで撮影した。最も規模の小さなものも、直径が小船の長さと同じ位の約三〇m程あり、竜巻の中では一五m/secの風が右回りに吹いており、海水(水煙)を巻き揚げていた。全ての竜巻は発生してから約三〇分程で消滅し、竜巻が発生した黒い帯状の雲も南東方向へ流れていった。(巡視艇こまゆき 柳田誠治船長) 視認状況より

このように竜巻のすぐ近くで詳細に観察し、かつ、ビデオテープに収められた例は珍しく、貴重な記録であります。当日の気象状況をみると、冬型気圧配置は発達した積乱雲で竜巻は発生しているよう

で、観測資料も乏しく、詳細に解析した別はほとんどありません。今後の新たな事例待ちというところで、現在、気象庁においても気象研究所と共同で日本付近に発生する竜巻についての調査が進められています。まだ基礎的な研究が必要ですが、竜巻の発生機構等についての説明が待たれるところで、いずれにしても、近くまで近寄らず、ひたすら逃げろのが得策のようです。

但馬魚便り

あかいか

22

名前が示すとおり全体が鮮やかな赤色をしていて、和名はソデイカ。隠岐島では「べにいか」とも呼ばれています。いま、但馬の各沿岸では漁のシーズンで好漁が続いています。ソデイカは、一属一種の暖流系外洋性イカで、胴長(外套背長)は七〇～八五cm、体重は二〇kg以上にも達するといふジャンボイカ。獲てるのは四、七kgが中心ですが、厚い上やわらかいので、にぎりや刺身の材料として人気があります。

大方は京阪神の料理店に直行しますが、地元で鮮魚店でも切り身などで売られていて観光客にも好評です。このソデイカは、沖繩、伊豆半島、三浦半島、小笠原周辺、日本海では対馬、朝鮮半島、能登半島から佐渡島あたりまで分布しています。秋から初冬にかけて浜を賑わす重要な魚種になっています。

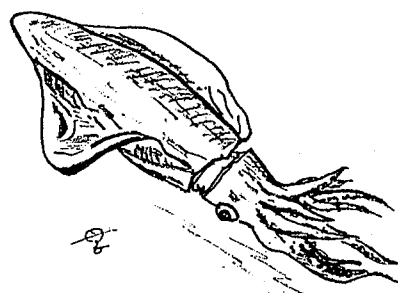
産卵は、沖繩周辺海域で三、五月が盛期で九月頃まで続く多回産卵型。そしてこの辺りが日本海資源の補給源

と考えられています。寿命は、ほぼ一年と推定され、その成長スピードの大きさは驚かされます。イカ類や魚類などの大型魚類を捕食していて、その多くはスルメイカを主食としています。日本海への来遊量は暖流勢力の強さに深く関与しており、回遊はこの暖流に乗ってやって来る索餌回遊です。しかしやがて来る冬の水温低下とともに行き場を失い定置網に入網するようになったり、あるいは衰弱した個体が海岸に漂着、つかみ取りとい

うこともあり。かたりの個体がこのように「死滅回遊」の運命をたどっているようである。但馬沿岸に来遊し漁獲されるのは八月頃に始まり一月頃までである。昨年は一、二トンと豊漁であった。今年は一〇月末で二、七トンと昨年並み以上に推移してあり、さらには期待のような理由で年による豊漁の差が大きい。全然獲れない年もあります。

主な漁法は、「樽流し」と言われているもので、長四角の発泡スチロールを浮子(以前は樽)にして約一〇〇mの幹線にソデイカ針(擬餌針)をつけ、釣りやより戻しをつけて一式としたものです。これを潮流に対して直角になるよう等間隔に投じていきます。その浮子を見回ります。イカがかかると浮子が立ちたりねたりし、列から離れたり遅れたりします。この漁法技術は、但馬で工夫開発されたもので、

年並み以上に推移してあり、さらには期待のような理由で年による豊漁の差が大きい。全然獲れない年もあります。最後にソデイカにまつわる体験者の珍説を紹介。「今冬は、暖冬気味との予報官。定着網にいつもは、カイダコ(殻をもった蛸)の入網が見られます。その上「あかいか」の豊漁と重なった年は大雪」とのこと。これの真偽のほどは不確かですが、今から気になる冬の天候です。(但馬水産事務所 試験研究室)



ソデイカ



試験研究室

兵庫県の3か月予報 (12・1・2月)

大阪管区気象台発表

概況 12月から1月は、冬型の気圧配置は長続きせず暖かい日が多いでしょう。2月は寒暖の変動が大きい見込みです。12月 移動性高気圧に覆われる晴れる日が多いでしょう。1月 冬型の気圧配置は長続きせず、暖かい日が多いでしょう。2月 寒暖の変動が大きいでしょう。一時冬型の気圧配置が強まり日本海側では大雪の恐れがあります。

(気温及び降水量の予想)

月	要素	気	温	年	平	年	値	(°C)	降	水	量	年	平	年	値	(mm)
12	月	高	い	豊岡	5.2	少ない(北部)	豊岡	184.1								
				神戸	7.5			神戸	38.0							
1	月	高	い	豊岡	2.6	平	豊岡	239.4								
				神戸	4.7		神戸	43.4								
2	月	平	年	豊岡	2.8	並	豊岡	193.6								
				神戸	5.0		神戸	54.4								

月平均気温及び月降水量の階級区分 (この基準は季節及び地域によって多少異なります)

要素	表現	高(多)い	平	年	並	低(少)い
気温	年	差	≥+0.6°C	+0.5°C	~-0.5°C	-0.6°C
降水量	年	比	≥120%	119%	~70%	69%

24時間オールワツチ
神戸漁業無線局
 (呼出名称) こうべきよぎょう (専用周波数) 26912KHZ

海区漁業調整委員会第九回

一〇月二三日
兵庫県瀬戸内海々区漁業調整委員会委員協議会を県中央労働センターで開催

一、本年度の漁海況の概要について
県水試から本年度における瀬戸内海側の水温等の海況推移と、これに伴うイカナゴ、シラス等重要魚資源の漁獲動向について報告があった。

二、資源培養管理(保護)推進について
小型機船底びき網漁業を対象として本年度から始まった当事業につき、県漁連から①漁業者組織結成②検討会の開催③管理計画案策定を内容とするその取り組み状況の説明があり、委員から今後の検討課題として①底びき網の操業時間規制②船びき網の統一休漁日設定等に関する意見があった。

兵庫JCC通信 今、農協・生協では

農業協同組合

協同組合間の草の根交流を、神戸市西農協が青空フォーラム

協同組合間の交流の方法を求めて「をテ」に、神戸市西農協、生協コープこうべなど主催の「生産者と消費

者の青空フォーラム」が一月九日、神戸市西区の県経済連神出実験農場で約二百人を集めて開かれました。

同農協と生協は十数年前から産直を続けてきましたが、これまでの物流中心の関係か

らさらに一歩進めた人的交流に発展させようというのねらい。同農協が打ち出している「ベジタ・コム・プラン」(野菜のまちづく

り計画)の一環でもありです。

フォーラムではまず神戸大学の山本修名誉教授が「協同組合間の交流の方法」と題して基調報告。続いて、生産者、消費者一人ずつのメンバーによるパネルディスカッションを行いました。

その中で、生産者からは「野菜づくりは労力がかかり、決して高くないはず」「消費者も農業を自分のものとして考えてほしい」などの意見が出され、消費者からは「苦労はわかるが、消費者は安く新鮮・安全なものを探している」「消費者も生産者の立場を考慮することが必要」などの意見が出されました。

最後に、相互交流の発展をめざして「協同メッセージ」を発表、フリートークを兼ねたおにぎりやパーベキューパーティーで楽しい一時を過ごしました。生活協同組合「子供たちにこそ青い地球を！」兵庫県生協大会を開催

兵庫県生活協同組合の学生組合員は六甲山周辺の、おいしい水をさがすなかで、水汚染の問題を考える報告を行いました。

「子供たちにこそ青い地球を」をテーマにした今年大会では、竹本成徳・連合会長が「アメリカの先住民族の『この地球は先祖からの贈り物ではない、子孫からの預物だ』との言い伝えを引用して、環境保護への生協の取り組みの強化を訴えました。

生協功労者表彰などの記念式典のあと、単協活動報告で、播磨生協(本部・相生市)が、全国に先駆けて始めた

小さく、まとまった受精卵を得るのが難しい。メイトガレイもヒラメと同様に異体類で、生産水温を変えた種苗生産試験に取り組んでいる。

目が移動して平たくなり底に着いて生活するようになる。現在、飼育水温を変えた種苗生産試験に取り組んでいる。

ベリジャー幼生

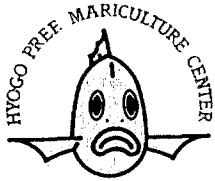
ア期を経てベリジャー幼生となる。この間は餌を必要としないが、水質管理がとて重要になってくる。まるで水を食べて成長しているかのようである。受精してから四日間、貝殻が形成され0.5mmに成長し、岩などに付着できるようにする。これからは波板に付着させておいた珪藻類を餌として飼育を継続

見交換が行われました。二、小型いかつり漁業の許認可取扱方針に関する要望について(継続)

但馬沿岸漁業組合連合会から提出された要望書について協議されましたが、鳥取県状況を踏まえ、引続き協議することになりました。

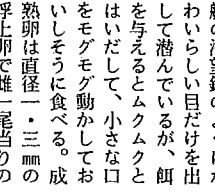
三、その他
諸寄地区における、人工魚礁利用による漁獲状況について、田中委員より報告がなされました。

見交換が行われました。二、小型いかつり漁業の許認可取扱方針に関する要望について(継続)



栽培漁業センターです (42)

二月に入り水温も二〇℃に下がってきた。栽培漁業センターではアワビの種苗生産試験に取り組んでいる。アワビは紫外線殺菌海水などで産卵誘発をして採卵する。親貝に刺激を与えると雌は緑色の卵を、雄は乳白色の精子を呼水孔から放出する。卵は〇.二mmの沈性卵で受精後二四時間でふ化し、トロコフォ



らさらに一歩進めた人的交流に発展させようというのねらい。同農協が打ち出している「ベジタ・コム・プラン」(野菜のまちづくり計画)の一環でもありです。

「子供たちにこそ青い地球を」をテーマにした今年大会では、竹本成徳・連合会長が「アメリカの先住民族の『この地球は先祖からの贈り物ではない、子孫からの預物だ』との言い伝えを引用して、環境保護への生協の取り組みの強化を訴えました。

小さく、まとまった受精卵を得るのが難しい。メイトガレイもヒラメと同様に異体類で、生産水温を変えた種苗生産試験に取り組んでいる。

目が移動して平たくなり底に着いて生活するようになる。現在、飼育水温を変えた種苗生産試験に取り組んでいる。

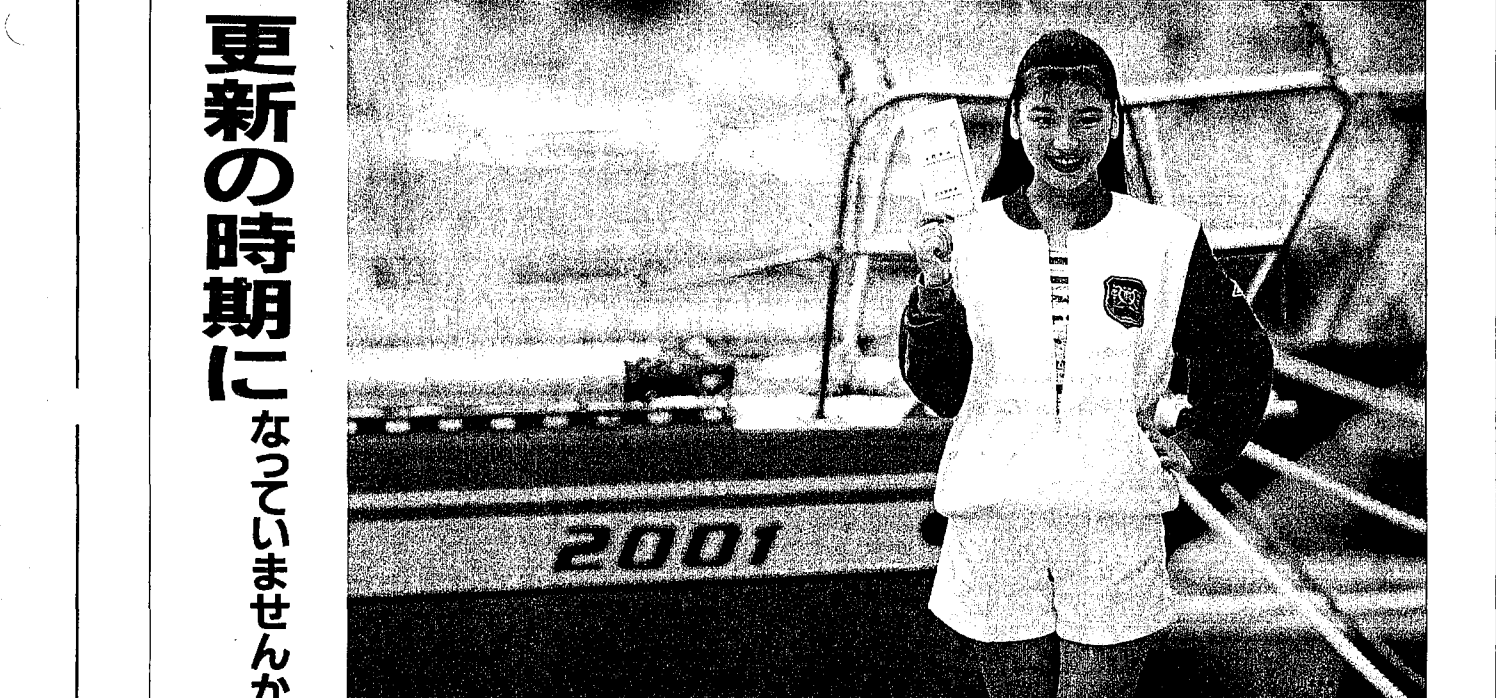
ベリジャー幼生

ア期を経てベリジャー幼生となる。この間は餌を必要としないが、水質管理がとて重要になってくる。まるで水を食べて成長しているかのようである。受精してから四日間、貝殻が形成され0.5mmに成長し、岩などに付着できるようにする。これからは波板に付着させておいた珪藻類を餌として飼育を継続

見交換が行われました。二、小型いかつり漁業の許認可取扱方針に関する要望について(継続)

但馬沿岸漁業組合連合会から提出された要望書について協議されましたが、鳥取県状況を踏まえ、引続き協議することになりました。

三、その他
諸寄地区における、人工魚礁利用による漁獲状況について、田中委員より報告がなされました。



更新の時期になつていませんか!

海技免状の有効期間は5年です。
更新手続は期間満了1年前から行えます。

お問い合わせは、地方運輸局、海運支局へ
運輸省海上技術安全局
財団法人海技免状更新協力センター